

やまなし水素・燃料電池バレー戦略工程表の概要

平成30年3月策定

工程表の趣旨

今後成長が期待される水素・燃料電池産業の集積・育成を図るため、研究開発拠点等が集積している本県の優位性を活かし、水素・燃料電池関連産業の集積地「やまなし水素・燃料電池バレー」の実現を目指して、産学官金が連携して進める取り組みの方向性と目標を示す。

工程表の位置付け

「やまなし水素エネルギー社会実現ロードマップ」で示されている水素・燃料電池関連産業の振興について具体的な道筋を示すもの。

目標年度

2030年度
5年に1回程度県内産業の状況調査のうえ、時々社会情勢、規制適正化や技術開発等の進捗状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを検討する。

本県の強み

1 産学官連携体制

山梨燃料電池産業化推進会議

- ✓ 2009年に、産業界、大学・研究機関、行政が連携して、燃料電池に関連する研究開発、産業の集積・育成を促進することを目的に設立（メンバー：39名）
- ✓ 大手燃料電池システムメーカー、県内企業、研究機関など県内外の関係者と産学官連携ネットワークを構築

やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会

- ✓ 2015年に、「燃料電池関連産業の集積に向けた取組みに関する基本協定」に基づき山梨大学、やまなし産業支援機構、山梨県の三者で設立
- ✓ 県内に集積する研究開発・実証拠点等の関係機関が、相互に連携することで、面的かつ重層的に関連産業の集積・育成に向けた取組みを推進

2 研究開発・実証拠点の集積



山梨大学

- ✓ 産業界と緊密に連携した研究開発
- ✓ 県内企業への技術移転の促進



山梨県産業技術センター

- ✓ 燃料電池セルの性能・耐久性評価
- ✓ 評価ノウハウを活用した県内企業の支援



HySUT水素技術センター

- ✓ 水素ステーション運用実環境下での試験・評価
- ✓ 水素ステーション運営等に係る人材育成



米倉山電力貯蔵技術研究サイト

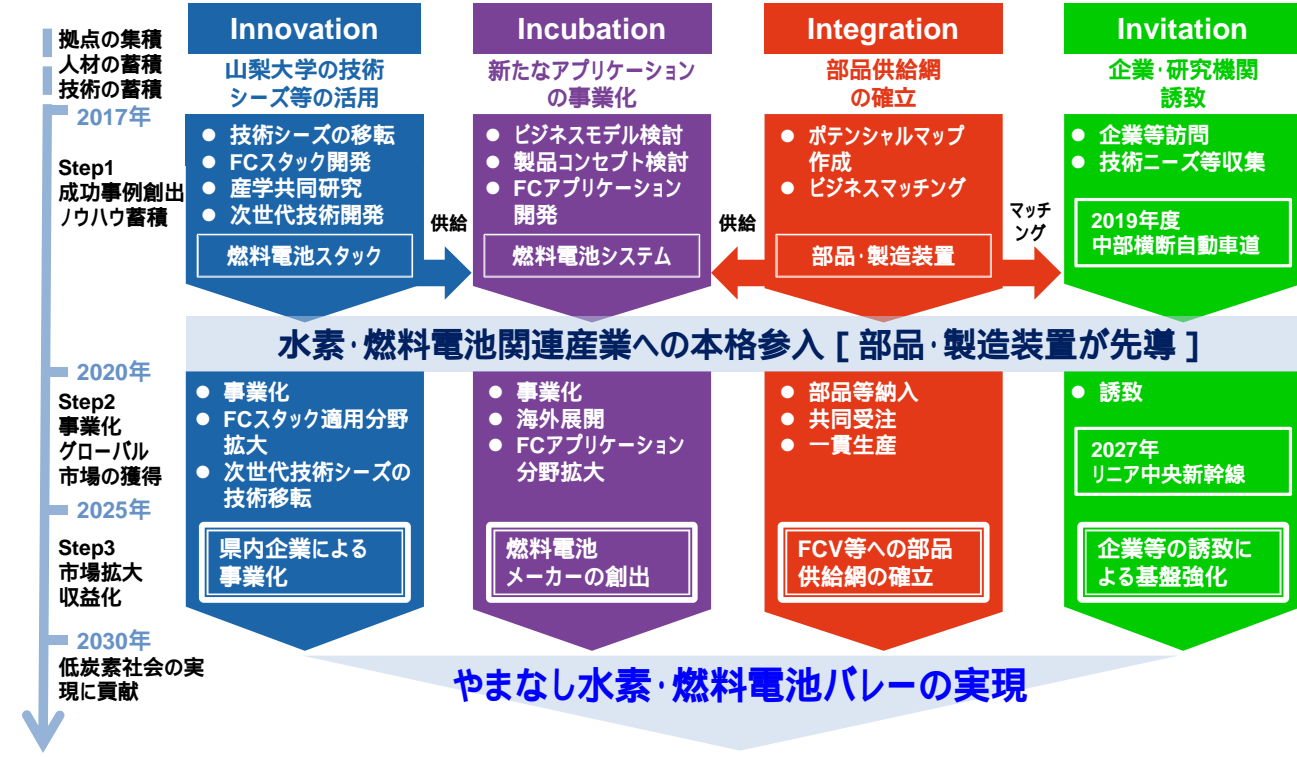
- ✓ 太陽光発電で水素を製造・貯蔵・利用するシステム実証
- ✓ 水素のサプライチェーン構築による県内への水素供給

3 高い技術力を有する県内中小企業群

- ✓ 燃料電池を構成する金属や樹脂部品に求められる精密な加工技術や高精度を要求される製造装置は、本県中小ものづくり企業が得意とする分野
- ✓ 本県製造業の主要製品のひとつである電子部品・デバイス・電子回路が部品として用いられるなど様々な業種・企業に波及効果を有する

やまなし水素・燃料電池バレーの実現に向けた取り組みの方向性

山梨大学燃料電池ナノ材料研究センターをはじめとする研究開発拠点の集積といった本県の強みを最大限に活かし、県内企業のポテンシャルが発揮される競争力の高い水素・燃料電池関連産業の振興を図るため、次の4つの柱（4I）で産学官が連携して各種の取り組みを進め、水素・燃料電池関連産業の集積地「やまなし水素・燃料電池バレー」の実現を目指す。



アウトカム

県内の水素・燃料電池関連産業全体で
売上額1,000億円、参入企業数200社、雇用者数5,000人

- ✓ FCV / 家庭用燃料電池 / 業務・産業用燃料電池の部品供給の3%程度
- ✓ ポータブル/バックアップ電源市場の30%程度

のシェアを獲得

推進体制

やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会において、具体的な取り組みの検討、実施、評価、見直しを行うPDCAサイクルを確立し、工程表の目標達成に向けた取り組みを推進する。

